



大砂土中だより

はつ らつ

澆 刺 と



さいたま市立大砂土中学校

048-684-8004

<http://osato-j.saitama-city.ed.jp>

No.10 令和5年2月1日号

探しているもの

校長 上続 昌司

今回は生徒の皆さんに読んでもらいたい本を紹介します。青山美智子 著「お探し物は図書室まで」です。5人の主人公がいて、それぞれの物語が独立して一つの本になっています。人生に悩む人々が、ふとしたきっかけで訪れた小さな図書館。不愛想だけど聞き上手な司書さんに「本を探している」と申し出ると、なぜか誰にも言えなかった本音や悩み、願望などを話してしまいます。一通り話を聞いた後、司書さんが選ぶ本に主人公たちは驚くことになります。それは、自分では絶対選ばないようなジャンルの本だからです。さらに、司書さん自作の付録もつけてくれるのですが、この付録も後に大きな意味をもってきます。特に私が皆さんに薦めたいのは「浩弥 三十歳 ニート」です。主人公の浩弥は、仕事に就かず実家でのんびり暮らしていましたが、ある日、母親に頼まれて買い物に出かけた先で、図書館司書の小町さんと出会います。この出会いをきっかけに、浩弥は自分自身の可能性を再確認することになります。もともと絵を描くことが好きだった浩哉は、自分が描く絵について深く考え始めることになるのです。「人の心に残る絵」とは、どんな絵のことを意味するのか。この意味を考えていく中で、浩哉は今まで避けてきたことや逃げてきたこと、あまり深く考えていなかった事などに興味をもち、自分が本当に「探しているもの」に気づくのです。自分に自信をもてていない、何をすればよいか分からない、やる気が湧いてこない等と思ってしまった時に読んでみると、「背中を押してくれる」そんな本です。

何かヒントになる、今まで気づけなかったことを気づかせてくれる、そんな本はきっとあると思います。本に限らず、自分が好きではないと思い込んでしまっている物や人、食べ物もそうですが、試してみると意外に好きだったり、見直したりすることってありますよね。自分の可能性をもっと、もっと高めていくためにも、いろいろな事に興味をもち、挑戦して行ってほしいと思います。生きるためのヒントは、案外すぐ近くに転がっているかもしれません。

3年生の多くの人は、公立受検に向けてのラストスパートですね。自分の可能性を信じ、最後まで諦めず取り組んでほしいと思います。一足先に進路のめどがついた人も、仲間の背中を押してあげてください。2年生は3月に自然の教室があり、その大きな目標に向かって準備を進めているところだと思います。埼玉では体験できない自然に触れ、仲間の良いところを認め合いながら絆を深めて行ってほしいと思います。1年生は1月に校外学習を終えたばかりです。この経験を今後の生活に生かして行ってほしいと思います。まだまだ寒い日が続きますが、負けずに前に進んでいきましょう。